

「心に太陽を」成長計画

- 1 自治体名： 黒龍江省
- 2 発表者名： 万揚郁 (Yangyu WAN)
(北東アジア小中学校環境体験グループ)
- 3 活動名： 「心に太陽を」成長計画
- 4 活動期間： 2008年6月3日
- 5 活動場所： ハルピン市環境教育地区
- 6 活動人数： 50人

7 発表要旨

授業対象：中学生

課程1：成功は、たゆまぬ努力によるもの

活動体験：自己への挑戦

プロジェクト紹介：学生は、機械ロープの助けを借りてはいけない状況下で、9mの高さの岩壁を上に向かってよじ登り、最後に、頂点までよじ登った場合のみ任務完了とみなしました。(シミュレーション)

課程2：私達がより高く飛べるように

活動体験：電力網

プロジェクト紹介：チーム全員が、ネットの一方の側からもう一方の側へ行きます。入り口の数は参加者の数より4つ多いです。どの人の如何なる部位もネットのどの部分にも触れてはならず、また話すことも禁止で、もし決まりを守らない人がいれば、触れられたネットの入り口は閉じられるため、移動中の参加者は再度引き返しました。これを、すべての人が通過し終わるまで実施しました。(ロープを使ったシミュレーション)

課程3：環境保護活動を自分から始めよう

今の中学生は、文化的知識の学習をとて重んじますが、共に生きる美しい空間である自然環境 地球をだんだんおろそかにするようになってきたため、多くの学生に、至る所で痰を吐く、ゴミを捨てる等の良くない習慣が身についており、環境保全の意識が希薄になってきています。責任を負わない彼らのこうした行為は、日常生活で環境教育があまり行なわれず、環境保全に対する知識が欠けていることにより生じたものなのです。当課程で計画した主な体験内容は、環境教育施設の見学や環境保全に関する映画鑑賞、環境保全植物モデル園の見学、ならびに実験田の耕作や収穫体験を通して、学生の環境保全に対する危機意識と責任意識を強めるということです。環境保全活動を自分から始め、生活を、自然を愛し、勇気を持って責任を持つ人にならねばなりません。

課程4：恩に感ずる心

この体験内容は、学生と保護者、教師の役交替で演ずることにより、学生の恩に感ずる心と責任感を呼び起こすというものです。